

3. デイサービス課

(1) デイサービス博水の郷係

介護リーダー 金子 リカ

① 概況

26年度の年間稼働率は81.53%であった。25年度の年間稼働率76.07%より5.46%の稼働率向上することができた。ひきつづき、稼働率向上に努めていきたい。

利用時間7-9時間枠のサービスを中心に取り組んでいたが、5-7時間枠のサービスを望むご利用者も聞かれ、5-7時間枠のサービスの受け入れも行った。

27年度は法改正にて報酬の見直しがあり、デイサービスは介護報酬が減収となることが決定した。そのため、27年度はサービス提供時間を5-7時間枠の一本化しての稼働としていく。新たな加算「中重度ケア体制加算」（45単位/日）を取得することになる。職員体制を整え、安定した稼働を目指していく。菜園活動や脳トレなどの活動にも力を入れ、認知症ケアの質の向上を目指していく。

② 重点目標への取り組み

稼働率の向上を目指した。事前に参加予定数を把握し、参加人数が少ない日程に関しては、家族にスポット利用の案内を行う取り組みをおこなった。

③ 稼働率

《月別 新規登録利用者数》												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8人	6人	2人	4人	4人	2人	4人	2人	4人	5人	2人	3人	46人
+3	+1	-3	-2	-4	-2	-5	-7	-1	±0	-3	-2	-26人

平成26年度は平均利用率が81.53%で、昨年度の76.07%を上回った。

新規登録利用者数は「46人」、前年度の「44名」より2名増加となったが、26年度の目標数値には届かなかった。届かなかった背景として、6月以降、相談員の交代などに伴い、空き情報を各事業所に毎月ファックスや、営業の電話をかける等のアピールが行えていなかった。きちんと営業活動が行えなかったためである。

しかし、後半については、その分スポット利用者の獲得に力を注いだ。あらかじめ確認している、利用予定の少ない日に、その曜日を利用していないご利用者に参加の打診をしていた。祝日やご自身の予定で休まれた際の振り替え利用の案内や、各種イベント開催時による参加の打診をしていた。断られても毎日必ず1件電話をかけるという取り組みをおこなっていった。入浴を望むご利用者が多く、入浴付きでの打診もおこなった。結果として「74名」のスポット利用者を獲得することができ、稼働率の向上につながった。27年度も継続して取り組んでいく。

④ 事故・苦情

- 事故は「13」件であった。内、受診に至った事故は「1件」、転倒「3件」である。
 - ・車椅子に座っている状態から前にあるイスに触れようとしてバランスを崩し、右側に転倒された。肘を下に倒れ、肘の痛みを訴えが聞かれ、病院受診を行っている。診察の結果、骨への異常は確認されませんでした。
 - ・フロアから送迎車への移動中にバランスを崩し、しりもちをついてしまった。フロアから施設玄関口までは距離が長いことと、ご利用者自身からの希望もあり、長距離の移動を車椅子での移動とすることになった。

- ・フロア内で椅子を引きずりながら移動した際にしりもちをつかれた。打撲痕や圧痛も見られなかったが、帰宅時まで車椅子で対応している。

●離設「1件」

- ・ご利用者が施設から外に出てしまうことがあった。職員が本人の姿が見えないことに気づき、付近の搜索を実施したところ、家族から自宅に戻っているとの連絡が入った。

フロア内の施錠が開けられた形跡がなかった為、職員が出入りしている事務所から外へ出てしまった可能性を予測し、事務所を不在にするときは、職員間で連携を図ることとした。

●入浴「2件」

- ・家族からタオルが戻ってきていないとの報告を受けた。職員、当日入浴されたご利用者に確認を行うも発見することができなかった。対策として、到着時、入浴前後、帰宅前に持参物品の確認を実施している。
- ・入浴時、身体を洗っているときに手すりに掴まって立ち上がった際に、バランスを崩す。職員が支えきれずに尻持ちをついた。立位に不安があるご利用者への対応を2名体制で実施し、安心して入浴してもらうようした。

●服薬忘れ「2件」

- ・服薬後の確認時に服薬出来ていないことを確認された。
まとめてチェックをつけていたことで内服したという認識になってしまっていた為、内服ごとにチェックをつけていくこと、時間が異なる内服対応にはタイマーを活用し再発防止とした。

●送迎「5件」（うち送迎車が障害物に接触する事故が「4件」発生）

- ・ご利用者へ送迎車の到着が遅れている連絡が出来てなかったことで、ご利用者を外で30分以上待たせてしまい、送り出しのヘルパーにも迷惑をかけてしまう結果となった。対策として、ご利用者の携帯・ヘルパー事業所への連絡・家族への連絡をおこなうこと、遅れの少ない軽自動車での個別送迎対応とした。
- ・ご利用者が乗車していないときや、徐行運転時での接触であったことで、幸いご利用者にケガはなかった。添乗員は、運転手からの要請があるときは、車から降りて周囲の安全確認をおこなうことにした。

⑤ ヒヤリ・ハット

入浴時、ご利用者の荷物が混在してしまうことが多発した。経緯としては、使用したタオルが濡れてしまっていることで、様々な場所にタオルを置いてしまうことでタオルが混在してしまったことが原因であった。対策として、浴室で使用したタオルをビニール袋に入れ、その方の脱衣かごに戻すことにした。

⑥ 満足度調査

アンケート内容の見直しを行い、活動にやや不満・不満を選択された方については、希望する趣味活動に○を付けられるようにした。希望のなかには、散歩・風船バレーなど、体を動かす活動の希望もあった。アンケートの回答を通じて、楽しんで頂ける活動が展開できるようにしていきたい。

満足度調査アンケート結果 —平成 26 年度— (%)

項目	内容	大変満足	満足	やや不満	不満
1	職員の挨拶・礼儀・言葉遣い・態度など、心地よい接客ができていますか？	28	63	2	0
2	困ったときや必要な時に、適切な介助やお世話を受けていますか？もしくはそうなった時に援助の期待ができそうですか？	23	62	7	0
3	健康チェックや服薬(与薬)援助など健康状態の把握に努め、適切に対応していますか？	18	77	0	0
4	トイレや入浴の時、恥ずかしい思いを受けていないなど、プライバシーや羞恥心が守られていますか	20	68	5	0
5	食事の味付け・品数・彩り・食器の雰囲気など、食事はおいしく、また快適ですか？	23	70	2	2
6	楽しいプログラムがあり、また希望する趣味活動の時間がありますか？	8	75	8	2
7	身体機能の活性化を目的に「できることをできるように」サポートする、日常行為や動作への自立支援ができていますか？	17	65	3	2
8	施設設備は使いやすく、またフロアの雰囲気は過ごしやすくて落ち着きますか？そして清潔感がありますか？	32	64	3	1
9	乗降時・運行中ともに安全が確保されるなど、安心できる送迎ですか？	32	55	3	2
10	「デイサービス博水の郷」はあなたにとって居心地のよい場所ですか？そしてこれからも利用したいと思えますか？	30	57	5	2

⑦ 緊急時対策

天候不良(台風)により営業中止とした日が1日、降雪による短縮営業が1回あった。いずれも送迎時の安全が危ぶまれると判断したからである。その際は、家族・担当ケアマネへの報告を実施し、独居の方の食事と安全確保の依頼をおこなった。27年度も、送迎時の安全が確保されないと判断した場合は、営業中止、又は短縮営業としていく。

⑧ 感染症対策

ア. 疥癬

疥癬に感染したご利用者がいた。デイサービス利用時の感染ではなかったため、他のご利用者や職員への感染はなかった。施設内での発生であったため、職員全員にオイラックスを支給し、塗布をおこなった。職員が媒介とならないよう予防に努め、デイサービス内での感染を防ぐことができた。

イ. インフルエンザ

全職員がインフルエンザの予防注射を接種した。また日頃よりマスクの着用を義務付けた。幸い、今年度は職員のインフルエンザの発症はなかった。ご利用者には到着時と昼食後のうがいと手洗いを徹底した。ご利用者にも予防意識が生まれ、積極的におこなう姿がみられた。

ウ. ノロウイルス

営業中、フロアで嘔吐があった際は、ノロウイルスを疑い、ノロ発生時の対応マニュアルに沿って対応をおこなった。ノロウイルスの可能性があった方に関しては、通所の自粛の協力を求めた。職員も同様に、疑わしき場合は出勤を控え、自宅安静とした。幸い、デイサービス内での感染はなかった。感染予防5原則「手洗い、うがい、換気、加湿、マスク」を厳守した。「うつらない、うつさせない、もちこませない」の取り組みを継続する。

⑨ 各種会議

ア. 在宅部会議

毎月の、在宅サービス部会議に参加し、稼働率や営業活動の報告をおこなった。また、各事業所間での課題についての検討や職員の育成など、適切なサービスの提供について話し合いをおこなった。

イ. 運営会議

在宅部部長が参加し、職員育成や業務についての相談・調整をおこない、適正化を図れるように開催した。

ウ. 健康会議

ご利用者の健康にかかわる業務（食事・排泄・入浴）についての見直しと検討を中心に、介護士と看護師で開催した。

⑩ 人材確保

26年度は2名の非常勤職員が入職。
個別育成計画を作成のもと指導をおこなった。

⑪ 人材定着・育成

個別育成計画

新人職員の育成にあたり、習得する業務の期間を具体的に設定して実施した。
勤務の都合等により、振替えりの面談が取れない時は、OJT記録をもとに業務中に振りの時間をつくるように心掛けた。

⑫ 内部研修

ア. 勉強会

26年度は、下記の項目で勉強会を開催した。
システムの内容について、食事介助の質の向上、入浴時の対応、体操（全体体操・口腔）、感染症発生時の対応、サービス提供票の理解、服薬対応方法

⑬ 地域参加

法人本部の地域支援室と協力し、喜多見団地まつりの準備と片付けに参加している。
多摩川癒しの会のイベントに設営や調理で参加した。27年度も、可能な限り参加をしていく。

⑭ 地域の専門機関・団体との連携・協力

あんしんすこやかセンターなどの機関との連携・協力を図ることができなかったため、挨拶に出向き、関係性づくりおこなっていきたい。

⑮ 家庭との関係づくり

ア. 家族会相談会「博水カフェ」の開催

1回の開催に5名のご家族を招いて開催した。「相談会」という堅苦しい雰囲気ではなく、ゆっくりとお茶を飲みながら話せる雰囲気となるよう工夫した。職員からは利用中の様子を伝えた後は、家族同士での会話の場をつくった。同じ悩みへの共感やアドバイスがあり、家族間交流の場となった。また、普段行っているサービスを実際にご家族に体験してもらう取り組みも実施し、好評を得た。27年度も実施し、交流を深めていきたい。

⑯ 各種サービス・支援

ア. 食事

食事前には必ず口腔ケア体操をした。ご利用者の身体状況に応じた快適な食事環境を目指した。その方のADLや体格に応じて椅子やテーブルを選択し、できるだけ自力で食べることができる環境を整えた。その結果、いつもより食事量が増えたり、自分で食べる時間が伸びたりするなどの効果があった。

イベント食（懐かしの洋食屋さんなど）の開催のあり、ご利用者にとってのたのしみの時間となった。

イ. 排泄

トイレ内では自立支援の取り組みをした。まず、自分の衣類を脱ぐ際、可能な限り自力を促し、職員は転倒しにくい環境作り心がけた。また、羞恥心への配慮も意識し、排泄時に1人で行えるように環境を整えることを継続した。安全対策としては、パーをしっかりと持ってもらい、体の前に手すりを設置し安全対策の対応を実施した。前の手すりを活用し、腹圧がかかりやすくもなる。安全面と羞恥心のバランスを考えた対応を職員間で検討しおこなっていく。

ウ. 入浴

浴室にてご利用者の好きな音楽（演歌等）を流した。フロア内で発語の少ない方も歌を唄っていた。流れている曲についての思い出話をしてくれ、ご利用者の脳の活性化にもつながり、フロアとは違った一面を見ることができた。

エ. 送迎

ご利用者の身体状態に応じて、座席の位置を調整や、送迎の順番を変更する対応をおこなった。また、玄関内の援助や、鍵の施錠など個別の支援を行った。

オ. リズム体操・グループ体操

体操の先生を週1回（金曜日）招き展開した。

グループ体操では、1グループ5名程度で構成している。ボールを使つての運動や体幹を鍛える運動や、時には手拍子に合わせて歌を歌う場面もあり、和やかな雰囲気での体操となっている。運動機能の維持、向上の時間として継続していく。

⑰ 行事・ミニ行事

ア. 納涼会・忘年会

夏の納涼会・冬の忘年会は、デイサービス博水の郷の2大行事として行った。納涼会は、ご利用者と共に夏を感じる夏祭りとして8月に開催した。忘年会は、1年間の感謝の気持ちを伝え、職員が利用者におもてなしをする会として12月に開催した。

26年度より、両行事でのアルコール提供を控え、ノンアルコールビールの提供

に変更した。利用者と職員がお互いにお酌できる貴重な時間である。二部体制で行い、一部は豪華ランチバイキングによる食事会をおこなった。二部の内容としては、納涼会では『風船バレー大会』と『盆踊り大会』。盆踊り大会では、職員が浴衣姿で登場し、ご利用者と一緒に東京音頭や炭坑節を踊り、夏らしさを届けた。忘年会では『紅白職員対決』と題し、尻相撲・サンタクロース早変身・キャッチボールの3種目で勝負をおこなった。最後には、職員が博水の郷の歌に合わせてダンスの披露を行い、ご利用者へ感謝の気持ちを伝えた。

イ. 茶菓子週間

例年納涼会・忘年会期間中に行っていたお茶菓子づくりを、26年度は納涼会・忘年会とは別の行事として実施した。

(夏⇒ドライフルーツ入りソフトクッキー、冬⇒豆腐のパウンドケーキ)

今まで、お菓子焼く工程に関してはすべて厨房へ依頼をしていたが、今回のお茶菓子づくりでは、すべてを厨房に依頼することはせず、実際フロアでオーブンを使用して焼き上げることもおこなった。

完成までの様子をご利用者と一緒に見届け、達成感を感じてもらうこと、におい(香り)を感じてもらい、脳(五感)へ刺激を届けたかったからである。実際、オープンから近いテーブルにはお菓子が焼けるにおいが漂い、刺激となった。

ウ. 創立記念式典

デイサービス博水の郷の開設日である9月2日に実施した。開所当初から利用頂いている方に祝辞をお願いした。職員も各々の感謝の想いを手紙にして読み上げた。デイサービス博水の郷が第2のふるさとになってもらえるようにと願いを込め、皆で「故郷」「博水の郷の歌」を歌った。

エ. 演劇公演

世田谷パブリックシアターによる@ホーム公演を6月に開催した。

演目は『きみといつまでも ~わたしのお父さんはロボットです~』集中して鑑賞する姿があり、物語の最後には感動して涙を流すご利用者もいた。27年度の公演依頼を行う。

オ. 誕生会

ご利用者の誕生日をお祝いするため、毎月の行事として計画・実施した。フロア中央に舞台をつくり、主役である誕生者の利用者にスポットをあてている。緊張した表情をしながらも、嬉しそうな表情も見せてくれた。誕生会の担当の職員は、誕生者のことをイメージし、会の内容を企画した。内容としては、季節の歌会・ダンスの披露・楽器演奏・切り絵・手品などを行っている。誕生会の記念品として、ご利用者が作っている手工芸作品をプレゼントとして渡し、職員からお祝いの気持ちを届けた。感動して涙を流すご利用者の姿もあり、毎回あたたかい雰囲気となっている。

カ. 七夕会

竹に皆で飾り付けをおこない、短冊にはそれぞれの願いを書いた。会では、織姫と彦星に扮した職員が短冊を読み上げ、願いが叶うように祈りを込めた。

キ. 節分会

年男・年女であるご利用者を中心にその年の幸運を願い、豆まきを実施。福豆の代わりマジックテープの付いた布製のボールを職員扮する鬼にむけて投げた。

⑩ クラブ活動

ダンス・陶芸・工芸（押し花・お面）絵手紙（顔彩絵具）の他に、26年度はパステル画の絵手紙の活動が新たに加わった。

パステル画クラブは、基本となる5色のパステル、綿棒、カット綿を使い、毎月季節に合ったテーマで作画している。

完成した作品は、ご利用者の了承のもと、1ヶ月間デイサービス玄関に展示した。

27年度は、工芸でポプリ袋（仮称）の展開も予定している。作品を持ち帰ってもらうことで、帰宅後の家族との会話のきっかけとなったとの声も聞かれている。既存のクラブ活動と合わせ、ご利用者に楽しんでもらえるようなクラブ活動を展開していく。

⑪ ボランティア

ア. お話しの会

月より、毎月2～3回開催している。

昔話2つと季節の歌を歌う時間となっている。会の始まりと終わりに「ありがとうの歌」（ボランティアによる作詞・作曲）を歌った。

イ. コーラス鑑賞会

26年度は2つのグループによる演奏会を開催できた。

知っている曲の時は、ご利用者も一緒に口ずさんでいる姿が見られた。

ウ. ギター演奏会

童謡・唱歌をはじめとした懐かしい歌をギターで演奏してくれている。

エ. リコーダー演奏会

お話しの会のボランティアと「こっころ」のメンバーにつながりがあり、演奏会の実現となった。大きさや音の異なるリコーダーでのアンサンブル演奏は、優しい音色となりご利用者の心を和ませてくれた。

職員の家族の知り合いを通じ、ボランティアに来たいとの希望があり、コーラス・リコーダーの演奏会が開催されることができた。27年度も開催が継続できるようにする。地域に住む高次脳機能障害を持った方と片側に麻痺がある方が継続してボランティアとして参加を継続してくれている。基本の役割はタイムスケジュールに沿って担ってもらっている。終了後には活動記録の作成を依頼している。タイムスケジュールの内容が開始当初から変更していない為、見直しを検討していく。

(2) 喜多見だんちデイ係

係長 野村 麻実

① 概況

創立3周年を迎えた。「料理作り」「買い物」を特徴としたデイサービスで、ご利用者を選ばれる施設を目指した。リピーターを増やすためにご利用者・ご家族との良好な関係づくりとさらに新規のご利用者を増やすためにケアマネジャーとの信頼関係を深めた。結果、昨年から引き続き85%台の稼働率を確保した。喜多見団地自治会への参加や地域での周知活動でもある芋煮会や祭り・避難訓練などの行事へ積極的に参加し、地域との交流の機会をつくった。

② 重点目標

稼働率の安定 年間平均90%

年間平均稼働率は85.6%であった。目標の90%は達成できなかった。昨年の85.46%と横ばいの数値となった。今年度は12月まで89%の稼働を確保していたが、11、12月とご利用者が3名退所し、その稼働率の低下から回復することができなかった。特に週6回・4回利用の退所が響いた。登録日以外の利用が年間66名となったことで大幅な稼働率の低下は見られなかった。7月に全曜日10名の登録を達成したが、12月以降は新規・追加利用もクスなく、回復はできなかった。

稼働率の向上のための取り組みとして2つの方法で営業した。

- 地域のケアマネジャーとの関係を深めるために、ケアマネ見学会を実施した。年間4回の計画を立て、2事業所3名のケアマネジャーが見学会に参加した。喜多見だんちデイのサービスの強みでもある「調理」の場面を見てもらい、ご利用者と一緒に昼食を共にした。結果、1名の新規ご利用者の獲得となった。
- 登録の空き情報や施設・サービス紹介のパンフレットを届けた。毎月、利用者情報を兼ねた近況報告書と一緒に訪問・郵送で配布した。

③ 事故・苦情 (件数・内容→項目分類・対策)

事故 6件 (受診の必要な事故は0件)

●転倒1件

【事案】帰宅送迎時に自宅内の移動中にしりもちをついた。痛みや可動域の変化もなく受診には至っていない。

【対策】自宅内での介助を確認して、安全にできる介助方法を統一した。また、自宅内の環境を変えて、より安全に職員が介できるように協力を仰いだ。

●やけど1件

【事案】エプロンにアイロンをかけた後の片づけ時にコードを仕舞おうとした時に手の平をやけどした。赤くなったが、痛みもなく帰宅した。職員が片づける対応ができていないことが原因であった。

【対策】誰もが安全に片づけられるようにコードを出さないで使用できるように環境を整えた。

●服薬忘れ1件

【事案】昼食後の服薬ができていなかった。喫茶前に気が付いて、本人と家族へ説明し、トラブルとなつてはいない。チェック体制が整っていなかったことが原因であった。

【対策】服薬担当以外の職員がチェックできる体制と整えた。連絡帳のケースへ服薬確認ができるようにラミネートした札を入れて、連絡帳担当がダブルチェックできるようにした。

●情報の連携トラブル1件

【事案】送迎時に家族が不在であったため、本人の意向で利用をする。しかし、前回、体調不良でお休みしており、家族は本人の体調が悪かったため大事を取ってお休みをさせようとしていた。利用中、体調が崩れることなく、帰宅してしており、家族からの苦情とはならなかった。原因は本人の意向を尊重し、家族確認をしなかったことであった。

【対策】体調不良後の参加については必ず主介護者と連携をする。

●送迎時のトラブル1件

【事案】帰宅する時に自宅の鍵を持たずに出てしまった。自宅当直時に鍵がないことに気づき、施設へ確認している。一度、施設へ鍵を取りに戻っている。送迎車が出発する前に鍵の確認ができていなかった。

【対策】改めて、送迎出発時に運行者が鍵の確認を行うことを徹底する。また、帰宅前に準備をする職員が送迎運行者へ鍵の有無を伝えることでダブルチェックを行う。

●施設の鍵紛失1件

【事案】施設の鍵を午前勤務の職員が持ち帰ってしまう。原因はご利用者の介助をするために自分の上着のポケットの中に施設の鍵をいれたことである。

【対策】鍵に鈴とヒモをつけて、首から下げられるようにした。昼のミーティングの時に、鍵の確認をする。

④ ヒヤリ・ハット（件数・内容→項目分類・対策）

200件のヒヤリ・ハットが挙げられた。75%がご利用者の支援・介助・過ごし方などについてである。ついで、テーブルやいすの配置や浴室内の配置など環境について、危険を予測してあげられた。

毎日、1件を目指して終業ミーティングで取り上げた。職員の危機意識を高めるためにも小さなヒヤリ・ハットも含め、情報を上げた。内容によっては早急にご利用者の支援を変えることや統一対応の変更などの対策を立てた。業務日誌に記載して、全職員が周知できるようにした。また、サービス向上会議で1か月を振り返り、事故予防に取り組んだ。

受診の必要な事故はなく、この取り組みの成果によるものである。

⑤ 満足度調査（実施方法・回数・結果・分析・課題）※アンケート表添付

毎月、ご利用者を対象にサービス全般に関する満足度調査を実施した。一年間で425名の回答が得られた。（回答結果は下記の表）

新人職員を含め、改めて挨拶・接遇に力を入れて取り組んだことで満足が100%と昨年と同じ結果が得られた。6プログラム・活動に関して不満は0%だったものの、やや不満が16%となった。具体的に希望するプログラムを聞き、「カラオケ」や「散歩」に取り組んだ。広場に出て、日光浴と体操をするなど、外の空気を感じながらの活動はご利用者から「気持ちがいい」「また、桜の咲くころやりましょう」など感想が聞かれた。記念に集合写真を撮り、フロアに飾り、思い出話を語ることもできた。今年度は予定していたご家族へのアンケートを実施することができなかった。

来年度もご利用者へのアンケートを継続していくことに加え、ご家族を対象にしたアンケートを行い、直接ニーズを聞いていく。

＜満足度アンケート集計結果＞ (％)

	項目	大変満足	満足	やや不満	不満
1	職員の態度・挨拶・礼儀について	54	46	0	0
2	援助の提供・適切な介助について	48	54	1	0
3	健康管理・健康チェックについて	48	51	1	0
4	プライバシーの保護	50	50	0	0
5	食事の味付けや彩り、雰囲気について	55	43	2	0
6	プログラム・活動の内容に関して	40	44	16	8
7	自立支援・生活リハビリ	40	53	7	0
8	施設の設備・環境について	46	48	6	0
9	送迎時の安全性について	52	47	1	0
10	総合評価 喜多見だんちデイについて	60	39	1	0

⑥ 緊急時対策（災害対策・利用者急変および事故対策）

ア. 自衛消防訓練

年4回の訓練を行っている。消防団員の指導のもとで消火器訓練と非難経路の確認、通報訓練をした。職員とご利用者も参加し、定期的に行っている。また、その機会に防災頭巾や消火器など備品の確認も行っている。また、10月に管理者が防火防災管理者研修に参加している。

イ. 商店街の消防訓練

7月に団地の商店街の防災訓練に参加した。商店街の方が集会室に集まり、火災発生時の対応について、消防士の方より指導を受けている。また、消火器の使い方や期限の切れた消火器の処分方法などの質疑応答をした。

ウ. 喜多見団地自治会の消防訓練

11月23日に団地のローラー公園行われた避難訓練に参加した。号棟ごとに集まり、避難者の人数確認を行った。地震の体験や火災時の煙を体験することができた。号棟ごとに各体験を回り、災害時の協力体制が取れるように関係づくり、顔合わせができた。

⑦ 各種会議（開催型・参加型・目的・成果・課題）

ア. だんちデイのサービス向上会議を月に一度、開催した。常勤職員に加え、非常勤職員が参加した。また、必要時には在宅部長からスーパーバイズを受けた。新しい活動の取り組みや利用者の個別支援・稼働率の向上のための営業など課題の検討などを話し合った。事故やヒヤリ・ハットを振り返る機会として、事故の再発防止と危険予測ができた。

イ. 在宅サービス部会議に月に一度、参加した。在宅サービス部の事業所・法人本部が参加して施設運営の安定化と適切なサービス提供を図った。稼働率や営業活動の報告・課題の検討や情報交換を行った。それぞれの事業所の成果や課題を共有する場となり、事業所間の連携ができた。

⑧ 人事確保（退職者数・入職者数）

入職者1名（5月）退職者0名

⑨ 人材定着・育成（具体的な取り組み・成果・課題）

職員の育成のための「個別育成計画プログラム」を作成し、教育体制を整えた。また統一した手順書・マニュアルを作成した。統一ができたことで新人職員だけでなく全職員が確認できるようになった。

日々の振り返りの機会として、終業ミーティングの中やOJT研修記録を通して不安や困りごとを共有できる機会を作った。また、定期的に面談し、個別育成計画を振り返り、課題を解決するためのアドバイスを行った。

⑩ 内部研修・外部研修（内容・回数・成果・課題）

職員の介護技術向上のための研修を12回（内部研修を12回、外部研修を2回）行った。今年度は「通所介護計画書」の役割を全職員で学び、日々のモニタリングの役割や重要性を確認できた。調理の研修ではタガヤセ大蔵デイと合同でおこない、サービスの共有を実現できた。感染症については2度の研修を行った。感染症が流行する前に一度行い、予防に努めた。また1月に感染症を含めた緊急対応の研修を行った。嘔吐者が出たが、周りへの被害もなく感染が広がることもなかった。

外部研修では「認知症」についての医学的理解と事例検討会に参加した。その知識を生かしてご利用者の認知症に対する関わり・ケアカンファレンスを行った。ご利用者がフロアの中で安心できる場所を見つけ、穏やかに過ごせるような関わり工夫をすることができた。

⑪ 地域参加（地域との関係作り→イベントやボランティアとしての参加やソーシャルアクションにおける成果・課題）

（自治会への参加）

毎月、喜多見団地自治会の役員会に参加した。自治会の活動や住民の困りごとや団地内の取り組みなどを聞くことができた。また、だんちデイの介護相談会や芋煮会を開催する際の周知活動への協力もしてもらうことができた。

（地域イベントへの参加）

ア. 喜多見団地が主催する夏祭りが7月19,20日に行われた。だんちデイの職員や地域支援室として本部職員も協力し、やぐらやテント張りの準備や片づけに参加している。また、今回初めて19日のカラオケ大会に参加した。カラオケに加え「喜多見だんちデイの歌」を披露し、デイサービスの周知に努めた。

イ. 秋の防災訓練が11月23日に行われた。自治会防災訓練への参加で地震の体験や消火器の使い方、災害時に避難経路や応急手当ての方法を学ぶことができた。

ウ. 芋煮会を開催した。だんちデイの周知と喜多見団地の住民との交流の機会、引きこもり高齢者へのアプローチとして無料芋煮会を行った。事前に団地内にチラシを配布・掲示するなど工夫をしたこと、そして防災訓練とタイアップすることで約100名の方に参加してもらうことができた。だんちデイの前広場に多くの住民が集まり、職員との和やかな時間を共にできた。

エ. 喜多見団地の高齢者クラブへの参加

高齢者クラブ「喜久寿会」の会合へ参加した。夏祭りや芋煮会・高齢者クラブの文化祭へ参加するなど積極的に関わる機会を作り、会合への参加へつなげた。

(ボランティアの受け入れ)

喜多見団地の住民の方や近隣に在住の軽度障害者の方、ご利用者のご家族の登録があった。レクリエーションの補助や調理の手伝い、マジックの披露などご利用者の楽しみとなり、ともに楽しむ仲間として依頼した。

⑫ 地域の専門機関・団体との連携・協力（ネットワーク作り）

（居宅・地域包括支援センター・医療・社会福祉協議会・各種連絡会など）
家族との関係作り（家族懇親会・介護相談会などの取り組み）

6月8日に「介護相談会」を行った。同じ法人の「グループホームやまぼうし」のホーム長を講師に迎えてご家族・地域住民を対象に行った。在宅サービス部の職員も集まり「認知症」についての話をした。6名の地域の方が参加され、アットホームな雰囲気です話をする事ができた。

⑬ 各種サービス・支援（新しい取り組み・目的・内容・成果・課題）

行事・ミニ行事（目的・内容・成果・課題）

- ア. 毎月1度、その季節に合った食事やご利用者や職員の出身地の郷土料理を楽しむ「行事食」を行った。季節を感じることに加えて、郷土料理や名産品を使った昼食はいつも以上に会話が弾み、生まれ育った場所や思い出を話す機会となった。
- イ. ミニ行事として「七夕会」や「節分」「ひな祭り」を行った。また、行事以外にも季節感のある装飾を施し、季節を目で楽しんだ。季節感のある装飾や行事ではご利用者と一緒に写真を撮影し、アルバムへ綴じた。行事が終わった後でもアルバムを見ることで、ご利用者それぞれが過ごした時間を振り返る機会となった。

(3) タガヤセ大蔵デイ係

介護係長 丸山 真吾

① 概況

平成26年9月より事業を開始して、7か月が経った。年間の稼働率は37,7%ではあった。月ごとに稼働率は上昇し、最終の3月は62,2%となった。月を追うごとに経営は安定してきている。27年度は、オープン初日より行ってきた畑で採れた新鮮な野菜を調理して、昼食を食べるという活動をより充実したものへと進化させ、より安定した経営を目指していく。

また、オープンした9月より認知症カフェを開催し、地域の方が気軽に認知症のことについて話せる場所を作った。述べ57名の方の参加があった。来年度も月に1度の定期的な開催を継続していく。

② プログラム活動

(a) 調理活動

日々の献立は当日ご利用者と話し合いながら味付けや、盛り付け方を決めることを行った。当日のご利用者の意向を可能な限り反映し、満足することが出来るように取り組んだ。食事の片づけも毎回協力を仰いで、お皿の片づけも依頼した。

(b) 趣味活動

ご利用者の趣味や、生活歴から基づいた活動を展開した。折り紙、塗り絵、将棋、トランプ、歌会、麻雀、絵手紙、映画鑑賞、音楽鑑賞など以前より好きだったものや、やりたいという意向があるものを紹介した。

(c) 体操

タガヤセ大蔵デイのオリジナル体操、棒体操や手ぬぐい体操に加えて、セラバンドを使った体操を展開した。伸ばすと負荷がかかるバンドを各々持ち、それを用いて座位の体操を実現した。体に適度な負荷がかかり、気持ちがよいと好評の体操であった。

ただ体を動かすのではなく、道具を手に持って楽しく体を動かすということを意識した。自然と笑顔が多くなった。

体操の最後には事業所独自の歌「タガヤセ大蔵デイの唄」を唄った。ご利用者にタガヤセ大蔵デイに対してより愛着を持ってもらうと作った歌である。歌詞は下記のような内容である。

♪「タガヤセ大蔵 みんなの歌声で しあわせを感じて 笑顔の花が咲く 愛情あふれる タガヤセ大蔵 タガヤセひとつに大根 一本 タガヤセふたつになすびがにほん みなぎる力だ のぞむ明日への タガヤセ大蔵」

朝の会や体操中、帰りの会に歌うことを必ず行っている。

(d) 菜園活動

オーナーさんが所有する畑で野菜を収穫するという時間を提供した。オクラやネギ、トマト、なすなどをご利用者とともに収穫することが出来た。定期的に畑に行くことは難しかったので、来年度は人員体制を整え取り組んでいく。

また、園芸クラブと題して、月に1度のペースで土や、植物に触れる時間をご利用者に提供をした。二十日大根やジャガイモなどを植えて、来年度に収穫予定である。今後も毎月苗や野菜などを種から植えて栽培する機会を設けていく予定である。

(e) 外出活動

近隣の野菜無人販売所へ2度ご利用者と買い物へ出かけている。また仙川沿いへの散歩を行い、野鳥観察の時間を提供した。近隣の畑に行き、夏野菜を直接収穫した機会もあった。オクラやネギなど収穫したものをすぐに、調理して昼食で食べることが出来るのはタガヤセ大蔵デイの魅力である。広い畑は気持ちがいとご利用者から感想が聞かれている。今年度は安全を優先する為車イスを使用する場面が多かった。来年度はリスクマネジメントを行ったうえで、歩行による下肢の維持向上を目指した機能訓練を取り組んでいく。

③ 稼働率

《月別 新規登録利用者数》							
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4人	7人	3人	0人	5人	5人	4人	28人
+1	+4	±0	-4	+2	+2	±0	+5名

新規登録者数は「28人」であった。目標を5名上回った。毎月空き情報を各居宅支援事業所に連絡し、また直接訪れることで得られた結果である。さらに7名の曜日追加利用にもつながった。またご家族の用事などで緊急のスポット利用に関して39回行った。ケアマネジャーやご家族の依頼に対して、迅速に返答することをおこない、待たせないということ意識した結果と考える。また同じ法人内の在宅サービス部の事業所間で地域の情報を共有し、その情報をもとに地域の行事に参加し、タガヤセ大蔵デイの営業を行った。

④ 事故・苦情

事故は「1」件であった。内、受診に至ったのは「0」件である

送迎時にガードレールに車両が接触するという事故である。幸いご利用者が乗っている状態ではなかった。通行人にぶつかるということもなく、運転手の職員もけがを負うことはなかった。しかし、安全な運行をおこなうため、あらためて指導を行い、事故防止に取り組んだ。

フロアでの転倒事故や、調理中に指を切るという事故はなかったので、来年度も同じ緊張感を持って取り組んでいく。

⑤ ヒヤリ・ハット

ヒヤリ・ハットは「9」件であった。すべてのヒヤリ・ハットに対して対策を設け、全職員で情報を共有し、事故につながらない様に努力している。来年度はさらにヒヤリ・ハットを見つけることが出来るように取り組んでいく。

《月別 事故ヒヤリ・ハット件数》							
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	3	2	4	1	0	0	10

(i) 送迎時

a) 交通事故 1件

- ・軽車両（4人乗り）で送迎中にガードレールにぶつかることがあった。前方より車両が来ていたため、左に車を寄せた場面で、寄せすぎたためぶつかってしまった

た。速度はゆっくりであり、車両内にはご利用者がいない状態であった。運転手にもけがはなかった。急いでいる場面ではなかったため、改めてゆっくりとした運転を心掛けるように注意した。

b) トラブル 3件

- ・荷物の忘れものが3件あった。出発直後に気付くことが出来、忘れものには至ってはいないが、予定の送迎時間が遅れてしまうことがあった。

c) ヒヤリ 2件

- ・ご利用者がご自宅に到着して鍵を出そうとかばんを覗き込んだ際に転倒しそうになることがあった。職員が横に付いていて支えることが出来たため、事故には至らなかったが、危険な場面であった。出発前に鍵の場所を確認してもらうことで、対応した。
- ・事業所に到着し、フロアに椅子にご案内した後、椅子上でバランスを崩し転倒しそうになることがあった。靴のままフロアに入るため、到着時に靴を拭いてもらうという自立支援を促している。その場面で足を上げた時に、バランスを崩した。靴を拭く自立支援を促す際に、必ず職員が前について見守りを徹底することで対応した。

(ii) 入浴時

a) ヒヤリ1件

- ・入浴時に着替える際にポケットから携帯電話が出てきた。持参しているという情報がなかったため、ご家族に確認をした。破損や紛失の原因にもあるので、朝の送迎の段階で持参時は所在の確認をすることで事故対策をたてた。

(iii) 服薬時

a) 服薬袋返却ミス 1件

- ・服薬完了後の空袋を違うご利用者の連絡帳袋へ返却してしまった。直後に違う職員が連絡帳を確認した際に、入れ間違いに気付く事故には至らなかった。薬返却時に確認を行う書式を作成し、ミスが起こらない様に対策をたてた。

(iv) フロア内での見守り

a) ヒヤリ2件

- ・子どもがフロアに居る際の安全確保の難しさがあった。子どもが走ると、ご利用者も心配になって追いかけてしまう場面があった。また抱えようと前かがみになると転倒の危険性もあった。子どもを連れてくる親御さんに声を掛け、子どもに声をかけてもらうように取り組んだ。
- ・調理中に包丁をご利用者が使用している場面で、他のご利用者がトイレに立ちあがることがあった。両者見守りが必要な場面であったため、包丁の作業を中断して、トイレの介助に入った。当日対応した通り、調理の作業の安全確保をしたのちに、フロアの対応をすることで対策をたてた。

⑥ 満足度調査

3カ月に1度、利用者アンケートを実施した。20の回答を得た。

満足度アンケート結果 ー平成26年度ー

項目	内容	大変満足	満足	やや不満	不満
1	利用者の方やご家族に対しての職員の言葉づかいは適切ですか？	14	6	0	0
2	歩行やトイレなど困った時に職員の援助は期待できますか？	14	6	0	0
3	お薬の管理や健康状態への配慮は適切だと思いますか？	12	8	0	0
4	入浴時やトイレの際などプライバシーは守られていますか？	12	8	0	0
5	食事の時間や味付け、品数、雰囲気など、食事には満足されていますか？	14	6	0	0
6	好きなプログラムや希望する趣味活動が行えていますか？	14	6	0	0
7	「できることはできるように」という自立支援のサポートはできていますか？	16	4	0	0
8	フロア的环境は過ごしやすく、落ち着きますか？	14	6	0	0
9	安全で快適な送迎運行ですか？	15	5	0	0
10	タガヤセ大蔵デイをこれからも利用したいですか？	11	9	0	0
有効回答数		20			

【結果】

項目3と項目4の大変満足の数値が60%と低い数値であった。項目10に関して大変満足を55%であった。すべての項目で、不満ややや不満という結果は出なかった。

【分析】

項目3に関して数値だけに頼ってしまっている部分があると考えられる。血圧や体温には出てこない体調の変化を、顔色や言動から読み取ることをしていく。数値が良ければ安心という気持ちにならないようにしていく。項目4に関しては、男性職員が多い中で、女性利用者からの声があった。女性職員の配置を行い、配慮ある対応をしていく。また、トイレやベッドのカーテンをしっかりと閉め、プライバシーの配慮を徹底する。項目6に関して、70%の大変満足であったが、具体的なご意見や指摘があった。好きな時間を選ぶほどの選択肢を提供出来なかったと考えられる。希望する活動としては花札、五目並べ、テーブルテニス、トランプ、麻雀、かるた、百人一首、カラオケが挙がっていた。物品等の環境を整え来年度は展開していく。項目10に関して45%の方が満足という答えになっている。少しでも大変満足と答えてもらえるようにすべてのアンケート項目に対して改善、工夫をしていく。

⑦ 緊急時対策

毎月1度、フロアで火災が起きたことを想定した訓練を行いました。訓練内容は消防署へ書面にて報告を行っている。また、町内会で行われているD型ポンプの訓練に参加し、操作方法の習得を行った。利用者の急変時は本部の看護師と連絡を取り合い、的確な指示を仰いだ。

⑧ 感染症対策

職員はもちろん、ご利用者、見学者、ボランティアなど事業所に訪れたかたすべての方に対して、うがいと手洗いの協力を求めて実施した。必要に応じてマスクの着用も促した。インフルエンザなどの感染症の流行は今年度起こらなかった。サービス終了後の次亜塩素酸ナトリウムによるテーブル、椅子の消毒も徹底して行った。

全職員、インフルエンザの予防注射を接種した。また日頃よりマスクの着用を義務付けた。今年度は職員のインフルエンザの発症は確認されなかった。ご利用者には到着時と昼食後のうがいと手洗いを徹底した。ご利用者にも意識が生まれ、積極的におこなう姿がみられた。

⑨ 各種会議

毎月の法人本部で各事業所管理者による在宅サービス部会議に参加して、情報の共有と、稼働率安定に向けた議論をおこなった。

それ以外では小規模デイの連携会議と、タガヤセ大蔵デイ調整会議を毎月1度行い、日ごろの業務の見直しや、小規模デイサービス特有の業務や事故防止についての議論を交わした。タガヤセ大蔵デイ調整会議では嗜好調査会議も行い、日ごろの料理の彩りや品数に加えて、ご利用者の食事の様子や、好みを再確認し、サービスの質の向上へつなげている。

⑩ 人材確保

非常勤職員のローテーションを実現した。女性職員でもあり、同性介入など柔軟な支援を提供することが出来た。来年度はローテーション出来る人材を増やし、より安定したサービスを提供していく。

⑪ 人材定着・育成

管理者との面談を定期的実施した。日ごろの悩みや、業務上困っていることなどを確認し、すぐに改善出来るように取り組んだ。今年度事業所を退職する職員はいなかった。来年度も退職者が出ることがないように、職員が安心する職場環境を整えていく。

⑫ 内部研修・外部研修・勉強会

調理に関する勉強会と、感染症が発生した際の対策の勉強会を実施した。調理の勉強会に関しては小規模デイでの特有のサービスであり、喜多見団地デイと共同で勉強会を実施した。来年度はデイサービス博水の郷とも一体的に勉強会を開催し、質の向上を目指していく。

⑬ 地域参加

石井戸町会が主催する自衛消防訓練に2度参加した。来年度は石井戸会「納涼親睦盆踊り大会」や大蔵住宅自治会「盆踊り大会」への参加を行いたい。

⑭ 地域の専門機関・団体との連携協力

- ・地域の居宅支援事業所へ毎月空き情報を伝えにいき、連携を図った。実際に事業所の見学もおこなってもらい、サービスに合う方の紹介へとつながった。
- ・訪問歯科協会と連携して、百瀬歯科に歯科検診の機会を提供した。ご利用者から5名の方の希望があり、フロア内で実施した。ご利用者が先生に対して日ごろの口の悩みを話す機会となった。
- ・大蔵住宅の民生委員の方との連携を図った。大蔵住宅に住む認知症の方や高齢者の話をうかがい、当事業所の通所サービスへつなげた。

⑮ 家族との関係づくり

- ・9月、10月とご家族を対象とした「家族会」を開催した。日ごろ行っているサービスの紹介や、フロア環境の説明を行い、タガヤセ大蔵デイへの理解を深める工夫を行った。来年度も3カ月1度のペースに実施していく。
- ・9月27日にフロア見学会を開催した。4名の方が見学された。この時見学された方がその後の利用につながった。

⑯ 認知症カフェ

認知症カフェの開催を9月より月1回のペースで7回実施した。認知症カフェとは認知症の方や認知症の方の介護者や認知症に関心のある方たちが集い、悩みを共有したり、新しい認知症ケアについて情報交換したりする、支えあいの居場所である。カフェには認知症の当事者やご家族の方などさまざまな方が来て、悩みを話す場となった。9月27日（土）に第1回を開催して、ご利用者のご家族が中心に3名の参加があった。10月24日（金）の第2回も同じく3名の参加があった。第3回になる11月29日（土）のカフェは大蔵住宅に認知症カフェの開催を伝えるチラシをポスティングし、より多くの方への参加を呼び掛けた。民生委員の方や、世田谷区の方の参加もあり17名の会となった。大蔵住宅での高齢化やと特有の人口分布などの話が話題となった。12月18日（木）に行ったカフェは砧あんしんすこやかセンターの管理者を招いて、介護保険や介護申請の話をした。12名の参加があり、内容の濃い場となった。第1回から第4回は夕方18時半から20時の開催であったが、参加者の要望や職員の負担を考え、第5回から13時からの開催とした。第5回のカフェは1月22日（木）に実施し、7名の方が参加した。地域のケアマネジャーを招いて、窓口になってもらい、カフェを開催した。1500枚のチラシを地域に配布して、よりさまざまな方へ認知されるように工夫をした。チラシをみて参加したという方が初めて1名来た。第6回もケアマネジャーを招いて2月24日（火）に実施した。

チラシを見たという方や、話を聞いて遠方から参加された方もいた。

3月23日（月）の第7回のカフェは9名の参加があった。介護保険サービスとの境を明確にするためパーテーションを設置しプライバシーへの配慮を強化した。つい立があることで、話がしやすかったという声が上がっていた。この3月の認知症カフェより世田谷区の後援を取得した。来年度は具体的な目的を設定して、認知症カフェを毎月1回運営していく。

⑪ 行事ミニ行事

【開所式】

9月1日のオープン初日には3名の方が参加した。昼食会にはちらし寿司を用意し、当日よりご利用者と調理を行った。午後には開所を祝してご利用者とテープカットを行った。午後には事業所の誕生を祝してケーキを皆で食べ、デイサービスオープンを皆でお祝いした。

【誕生日会】

ご利用者の誕生日会を7回行った。すべての誕生会でケーキを手作りし、主役の誕生者の方へ歌をプレゼントした。ケーキに飾られた自分の名前のプレートを見て、皆さま喜んでいただいた。その様子は写真に撮りプレゼントした。可能な限り当日にお祝いする工夫を行った。

【クリスマス会】

12月24日、25日の両日実施した。第1部は食事会と行い、第2部にはギターとウクレレの音楽会を開催し、お茶菓子にはクリスマスケーキを提供した。この会には12名が参加した。食事会ではローストチキンや豚の角煮、カニの Pasta サラダなど日ごろのメニューではお出しできない豪華な内容で提供した。この日もご利用者とすべて調理を行い、お茶菓子に提供するクリスマスケーキも手作りした。飲み物にはジュースを用意し、乾杯した。

食後にはボランティアさんを5人招き、ギターとウクレレ会音楽会を開催した。クリスマスにちなんだ曲をたくさん歌い、リクエストに応じてくれた。職員だけでは実現できなかった素敵なクリスマス会となった。

【新年会】

1月5日～1月8日の3日間、新年会ということで、ちらし寿司とノンアルコールビールで新年をお祝いした。新年会には20名の参加があった。ご家族の参加もあり、初めての新年会であったが、大変盛り上がった。ノンアルコールではあるが、ビールによる乾杯は、とても雰囲気があるもので、いつもより飲む量が皆さま多かった。

【節分会】

2月3日に節分をテーマに利用を提供し、8名が参加した。節分会ということで、豆料理を準備した。大きな煮豆や、豆を使用したカレーを提供した。季節を意識した初めての行事食であったが、皆さまよりおいしいという声が聞かれた。鬼の装飾もフロアに施した。

【雑祭り会】

3月3日にひな祭りをテーマに料理を提供し、10名が参加した。ちらし寿司が大きなお皿に盛られると、ご利用者から色がきれいで食欲が出るという言葉が見られた。普段おかわりをしない方がする場面もあり、味も好評であった。むせこみなどの場面もなく、事故なく終えることが出来た。

⑫ クラブ活動

【パステル絵手紙クラブ】

ボランティアを招いて3回実施した。パステルを用いて、絵手紙にさまざまな絵を描いていきます。描いたテーマとして「羊の干支を描いた年賀状」や「富士山」、「鶴」を描いた。完成品の見本を見ると誰しものが出来るか不安と言っていたが、先生と描いているうちに出来上がってくる作品を見て、持って帰って友達に手紙を書くわと言っていただけの方もいた。4月は「桜並木」。6月は「紫陽花」を予定している。

【ディキヤール（陶磁器）クラブ】

ボランティアさんを招いて、14回実施した。陶磁器に転写紙というお花柄のシールを張り付け、窯で焼き付ける作品である。焼き付ける陶磁器や転写紙は先生が買い付けしたものである。素敵なのが揃っていて、材料を見ているだけでもきれいで、楽しいものばかりである。クリスマスのキャンドル立てや、シュガーポット、スープ皿や、ヨーグルト皿、ケーキ皿、マグカップなどさまざまなものがあります。お花のレイアウトは自由で、カップの中や取っ手に付けるなど完成品はひとそれぞれである。出来上がったものを皆で自慢しあうなど、どれも質が高いもので、プレゼント用に作る方もいる。近隣の方の参加が多く、知名度の高いクラブとなっている。

【アコーディオンと太極拳クラブ】

ボランティアさんを招いて、2回実施した。太極拳でウォーミングアップを行って、アコーディオンの音楽会へ進んでいくという流れである。太極拳の先生の動きの独特な動きに合わせて、ゆっくりと体を動かしていく。太極拳の動きはゆっくりだが、手足や胴体など全身を前後左右上下に大きく動かす有酸素運動である。座ったまま行える座位運動で展開しているが、運動量は高く、血行や新陳代謝が活発になり、短時間でも汗が出てくる。体操時に行う呼吸法である「腹式呼吸」の酸素摂取量は通常の呼吸の三〜五倍、脳に酸素が行き渡って心を落ち着かせる効果がある。

その後のアコーディオンの音楽会ではピアニカやウクレレ奏者も加わり、懐かしの歌や、童謡を歌う時間となる。ご利用者にもマラカスや、タンバリンを持ってもらい、一緒に曲を演奏する時間となっている。毎月1回の時間で、来年度も継続して実施していく。

【やじきたバンド】

ボランティアさんを招いて、3回実施した。アコースティックギターによる演奏と歌の時間である。300曲以上ある持ち歌をご利用者の様子を見て、展開している。毎回ギターやアンプの機材も変えたり、ギターの魅力や、曲の思い出なども織り交ぜて、聞いている方を飽きさせない工夫もしている。生のギターの音が近くで聞けてうれしいという声が多く聞かれ、楽しみにしている方が多い時間である。

【園芸クラブ】

ボランティアさんを招いて、7回実施した。園芸療法士の方で、植物や季節の話を通じて、さまざまな作品作ったり、植物を植えた。12月には「松ぼっくりクリスマスツリー」を作成した。大蔵地域で採れた自然の素材を使用した作品で、各々素晴らしい作品となった。1月には「オーガニックコットンを使用した干支の羊づくり」をした。難しいと言っていた方も行うにつれ手が動いていた。2月には「押し花コースター」を作った。パンジーや朝顔、レースフラワーの色鮮やかな花を好きなレイアウトで飾ることが出来るコースター作りは大変好評であった。来年度も必ず企画したい内容である。3月からは植物を植える活動を始めた。まずはラディッシュの種まきを行った。テーブルの上に土がいっぱい入ったプランターを用意し、そこにきれいに種を植えていくという作業である。以前行ったことがあるという方が多く、手慣れた手つきで参加するご利用者が多かった。収穫は4月中旬である。3月末にはジャガイモの植え付けを行った。今回も土づくりから皆で協力して行い、ジャガイモの芽取りなど細かい作業もすべて行った。収穫は6月予定である。ラディッシュと同様に収穫して昼食で調理し食べる予定である。園芸にはさまざまな効果が期待される。筋力低下を防止する適度な運動を伴う作業や、仲間との会話を促す共同作業で社会性の維持が保たれるのである。また、収穫への楽しみや将来を期待する作業となり生きがいを感じる事が出来る。最後に収穫物を料理したり、作品

にするなどの作業をすることで、生活能力の維持にもなる。来年度は4月に「お米の種まき」。5月に「朝顔の種まき」。6月に「ジャガイモの収穫」。7月に「フレッシュミントティーのお茶会」。9月に「大蔵大根の種まき」。10月に「稲刈り」。11月に「パンジーと球根の植え付け」。2月に「大蔵大根の収穫」。3月に「春の生け花会」を予定している。

【お話の会】

ボランティアを招いて、日本の昔の童話の読み聞かせを3回行った。昔なつかしい愛着のある話を中心に、大きな声でゆっくりと読んでいる。自然と物語に集中して、無表情だった人に笑顔が出たり、体を上下に動かす人がいたり、さまざまな反応が見られた。途中には季節に応じた童話を唄った。歌詞を目で追いながら、手を叩いて唄った。歌詞を朗読することとても皆さま喜んでいて。聞きなれた歌や言葉が耳に入ってくるということは安心感が生まれ、認知症の方の気持ちを和らげている。

【きよもりクラブ】

ボランティアを招いて12月と2月の2回実施した。ボランティアの歌と、職員の特技であるハーモニカが競演する音楽会だ。季節に応じた歌を準備し、当日に向けて練習を重ねて本番に臨んだ。衣装にも工夫を行い、ドレスを着用した。12月のクリスマスに合わせて行った歌会ではサンタクロースに扮して、歌会を行った。2月は新春コンサートとして、お正月や春の歌を歌った。きよもりクラブの特徴はご利用者参加型である。タンバリンや鈴、マラカスなどご利用者にも音を奏でてもらい、皆で作りに上げていく音楽会である。2回のどちらも好評で、来年度も継続して実施していく。

【調理クラブ】

2月14日のバレンタインデーの日にチョコレートの飾り付けを行った。チョコペンやスプレーチョコで彩りを加える活動であったが、女性の方も男性の方もみなさん集中された。全員違うデザインになり、職員も楽しい時間であった。そのまま当日のお茶菓子として皆で食べた。来年度は4月に「桜餅」。6月に「水ようかん」。8月に「手作りパフェ」。10月に「ジャガイモ餅」。12月に「クリスマスクッキー」を予定している。奇数月にも現在調理クラブを計画している。

⑱ ボランティア

クラブを開催していただくボランティアの他にもさまざまな方の力を借りている。ご利用者との傾聴とコミュニケーションを行うボランティアや、昼食で使用したお皿を洗っていただく方などである。ご利用者のご家族の協力者も居て、決まった曜日ではない日にふらっと立ち寄ってくれる方もいるのである。すべての方にボランティア登録をお願いし、個人情報保護に関する誓約書を頂いている。

(IV) 事務部 事業報告

事務部長 倉井 葉子

① リクルート体制

統括本部の介護・支援人材対策室と連携を図り人材確保を行った。

ハローワーク・東京都社会福祉協議会・世田谷区等主催の就職フェアに合計7回参加した。

さらにホームページをみて応募される求職者も数件あり、ホームページが充実してきたことが伺える。

26年度は離職者数を上回る採用ができたため、現場の業務に支障をきたすことなく人員を配置することができた。

②エルダー制・研修の充実

新人へのエルダー制は職員に浸透し、新人が内部・外部研修に計画的に参加することができた。

新人以外の職員に対する研修参加も積極的に行い、多くの職員の研修参加がなかった。人員が充足していることで研修参加を奨励することができた。

③労働安全衛生に努め、安心・安全な職場環境の維持

職員との定期的面談により、職員の異動の希望や相談を受け付けた。

ご利用者の生活や日常業務に支障がないよう、備品・消耗品の管理を定期的に行い、円滑なサービスが行えるよう心がけた。

1Fの面談室は頻繁に利用されるようになったため、ボランティアの方が作業できる部屋の整備が必要になった。今まで女子ロッカー室として使用していた部屋の配置替えをして作業・休憩できるスペースを確保した。

④ 福祉サービス第三者評価の受審

26年度も第三者評価を受審した。

ご利用者の声を聞くことで、サービスで不足している部分の把握と、高く評価されている部分の今後の継続について検討することができた。

職員からの意見も知ることができ、法人が目指す理念や事業の方向性などを全体会議で発表し、意識統一を図った。

⑤ 福利厚生 of 充実

職員の福利厚生 of 充実を掲げ6年が経過した。

他職種、他事業所の職員の顔がみえるようになり、部署を超えてのつながりができてきた。

職員腰痛改善のカイロプラクティック技士による無料施術も継続して行い、職員の負担軽減を行った。